

主役は俺だー 2023年秋②

■池原響生（いけはら・ひびき） 北海学園大 LB 3年

7月16日の北海学園大と北海道大のオープン戦。0-17と北海道大にリードを許して迎えた第3Q9分に、北海道大QBが投じたパスを、インサイドLBの池原が狙い澄ましたようにインターセプトし、自陣27ヤード地点からサイドライン際を快走。北海道大選手のタックルを振り切り、73ヤードの鮮やかなリターンTDを決めた。PATのキックも決まり7-17。「狙っていた。去年の秋の北海道大戦の先制点になったインターセプトリターンTDとまったく同じだった」と、してやっつりの池原。押され気味だったチームに渴を入れるビッグプレーだった。

伊達緑丘高野球部で投手と中堅手を務めた。大学入学後にInstagramでアメフト部のPR動画を見て「おもしろそう」と興味を持った。全道優勝を目指すハードな練習と明るいチームカラー。オンとオフの切り替えも好ましく、アメフト部の門をたたいた。175センチ、86キロの均整の取れた体と肩の強さでQB志望だったが、「まずは競技に慣れるため」とLBに。チーム事情から、2年生からはLB専任になったが「ラン、パス両方のプレーにかかわられて目立ってる。失敗してもおもしろい」とその魅力のとりこになった。「得意プレーはパスカバー」と胸を張る。去年春のオープン戦から、北海道大戦では3試合連続でインターセプトを決めた。ライバルとの相性の良さも自慢だ。

攻撃の主力選手が交代した今季。守備チームへの期待も大きい。「守備がしっかり止めて、攻撃チームに流れを持っていきたい。攻撃チームまかせにしない」と上級生の自覚も十分だ。「スカウティングとビデオチェックで、相手のプレーが頭に入っている。やろうと思えばできることをしっかりやるだけ」とインターセプト術に磨きをかける一方で、タックル強化にも励む。「去年はタックルミスで負けた。今年はインターセプトもタックルももっと数を増やす」と決意した。

〈プロフィール〉

2003年3月15日、伊達市生まれ。経済学部地域経済学科。「プレーと発言でチームを引っ張った」と、同じLBだった昨年の松本竜輔主将を尊敬する。今季の主将のDB佐々木祐弥も「今、チームで一番乗っている」と期待する。

